

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
基礎科目	看護科学研究論	1 前	2			
	理論看護学	1・2 前		1		
	看護倫理学	1・2 前		1		
	看護システム開発学	1・2 前		1		
	小計 (4) 科目	—	2	3	0	
専門科目	看護ケア実践開発科学特講	1・2 前		1		
	看護教育学特講	1・2 前		1		
	政策・管理看護学特講	1・2 前		1		
	高度実践開発看護学特講	1・2 前		1		
	生活支援開発看護学特講	1・2 前		1		
	小計 (5) 科目	—	0	5	0	
研究科目	特別研究Ⅰ	1 通	2			
	特別研究Ⅱ	2 通	2			
	特別研究Ⅲ	3 通	4			
	小計 (3) 科目	—	8	0	0	
合計 (12 科目)			10	8	0	
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法						
基礎科目 4 単位以上、専門科目 2 単位以上、及び研究科目 8 単位の 計 1 4 単位の単位修得、並びに学位論文の審査及び最終試験に合格すること。						

授業科目の概要

看護科学研究論	〔授業の目的〕 看護研究を実施するために必要な概念及び基本的知識、研究手法を学び、EBN (Evidence Based Nursing) に基づいた看護実践を促進できる研究能力を養う。 ① 看護研究を行う上で必要となる研究方法の基本的知識について学修する。 ② 看護研究の具体的なプロセスと研究方法について学修する。 ③ 理論的根拠に基づいた看護実践の意義と研究課題に基づいた研究推進について学修する。 〔授業の概要〕 高度な研究能力を育成し、グローバルレベルで看護の理論や実践における新たな知見を獲得するための重要な科目で、以下の内容を含むものとする。
理論看護学	〔授業の目的〕 研究を行う基盤として、またグローバルかつ学際的な視点から看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法（概念分析含む）や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修することを目的とする。 〔授業の概要〕 看護理論の背景にある哲学を踏まえ、看護学及び看護における知や看護理論の成り立ちや構造を学び、興味関心のある現象について概念分析を行い、看護理論の分析・評価を行う。
看護倫理学	〔授業の目的〕 ① 生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題をグローバルかつ学際的な視点から探求する能力を修得する。 ② 各研究領域での国内外の倫理的課題と研究方法について探求する能力を修得する。 ③ 研究の遂行に必要な研究倫理について考察し、研究計画書の倫理的配慮、同意書など研究に必要な倫理的課題を明確にした研究計画を策定できる。 〔授業の概要〕 ① 看護学を科学的に探究するために求められる倫理的基盤を養い、看護研究を開発し発展させるために取り組むべき国内外の倫理的課題を明確にし、その対処方法を開発する。 ② 看護学の発展に必要な研究の遂行において各研究領域における倫理的課題を抽出・分析し、対応するための能力を修得する。
看護システム開発学	〔授業の目的〕 看護実践の質向上に寄与する新たな看護システムを開発・変革するためのビッグデータや AI、IoT などのデジタル技術の活用について、必要な概念及び基本的知識、研究手法を学び、EBN (Evidence Based Nursing) に基づいた看護実践を促進できる研究能力を養う。 〔授業の概要〕 看護実践の質向上、EBN の実装に寄与する新たな看護システムを開発・変革するための具体的手法について学修する。従来手法にとらわれない、革新的なシステム開発や変革の方略として、ビッグデータや AI、IoT などのデジタル技術の活用について学修し、看護システムの開発や EBN に根ざした看護実践に活かす手法を修得する。また、効果的及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程（博士前期課程）での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0 における看護システムの創造、変革のありようについて、グローバルかつ学際的な視点から検討する。

看護ケア実践 開発科学特講	〔授業の目的〕 グローバルかつ学際的な視点から看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題を探求し、理論的、実践的に探究する。 〔授業の概要〕 看護学領域と周辺学問領域の諸理論を学修し、国内外の研究についてクリティックを行う。諸理論や国内外の研究並びにディスカッションを通して、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における諸課題を分析し解決するための方略について考察する。
看護教育学特講	〔授業の目的〕 看護教育における研究課題と方法論をグローバル、かつ学際的な視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。 〔授業の概要〕 看護学教育実践における諸理論や主要概念について国内外の実践上、研究上の動向を検証する。看護学教育における諸課題を分析し解決するための方略について考察する。
政策・管理 看護学特講	〔授業の目的〕 質の高い看護サービスの提供を可能とする組織とシステムのあり方について、個々の医療機関レベルから国内外の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する。 〔授業の概要〕 看護学政策・管理学における国内外の取り組みと課題、研究の動向について様々な先行文献を検証し、クリティックやディスカッションを通して理解を深め、興味のあるテーマの課題と研究方法を検討する。
高度実践開発 看護学特講	〔授業の目的〕 高度な医療レベルを必要とする個人と家族を対象に、療養生活の支援に必要な専門的看護援助・患者教育方法などの看護実践や患者教育について研究論文のレビューを行う。周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における課題を明確にし、最新の知見や動向、さらには 知識の創出や看護ケアの開発について理解を深め、関心ある研究テーマへと発展させるための理論開発及び研究手法を検討する。その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。 〔授業の概要〕 ・高度実践開発看護学における理論・概念、研究の動向について文献レビューを行う。 ・クリティカルケア、周手術期ケアなど治療期にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 ・治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 ・高度な看護実践を臨床現場に適応するための方略を構築する教育力を養う。 ・高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。

生活支援開発 看護学特講	〔授業の目的〕 病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心にグローバルかつ学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。また、トランスレーショナルリサーチの手法を用いて、研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。また、看護職への教育力の向上を目指す。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。 〔授業の概要〕 健康問題・健康課題を生活者の視点で多角的に文献を収集・検討する。 研究エビデンスの実装化の方向性と臨床に実装化する方法を検討する。
特別研究Ⅰ	〔授業の目的〕 ① 専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。 ② 学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。 〔授業の概要〕 ① 関心領域の文献レビューを行い多角的に研究課題を検討する。 ② 研究課題について研究デザインを検討し、研究計画案を作成する。 ③ 研究計画書について指導教員以外から広く意見を得る機会を持ち、研究倫理審査を受ける準備をする。
特別研究Ⅱ	〔授業の目的〕 研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。 〔授業の概要〕 ① 研究計画書について研究倫理審査の結果を受け、研究の実施を具体的に進める。 ② 研究計画書に基づいて研究を遂行し、得られたデータを分析・考察する。 ③ 研究の進捗状況をまとめて発表し、研究のリフレクションと修正を検討する。
特別研究Ⅲ	〔授業の目的〕 「特別研究Ⅱ」で受けたリフレクションをもとに学位論文の作成を通して、研究の一貫したプロセスを遂行する研究実践能力を養う。 〔授業の概要〕 学位論文に関連する論文をまとめ、学術誌に投稿する。